

国文学研究

第百九十六集

活字出版書肆の黎明

——ある出版人のこと——

古代神話伝説作品の構図

——書き手の「視座」から見る「古事記」と「播磨国風土記」——

『萬葉集』巻十五遣新羅使人歌群における「古挽歌」の役割

『北院御室御集』「ささおくれたる枝」考

——一身阿闍梨宣下をめぐるつて——

『尊守・知心歌合』の新出断簡をめぐるつて

自然景観の変化から説話の背景を探る

——中世聖徳太子伝「聖法輪蔵」別伝の四天王寺建立説話に見る樹木伐採と木材調達——

勸化本作家玄貞と一七世紀末上方出版

（フイリピン）表象を「囁む」

——織田作之助「わが町」とその周辺——

その性を理解するということ

——吉行淳之介「技巧的生活」の想像妊娠／性的不能——

「古本節用集」の資料性

——「日葡辞書」と対照して——

〈書評〉

内藤明著『万葉集の古代と近代』が問いかけるもの

上野 誠 141

山岡華菜子著『環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究』

中井 幸比古 148

高橋敏夫先生略年譜・主要著作等目録

町田守弘先生略年譜・主要著作等目録

二〇二一年度博士論文・修士論文・卒業論文題目

新刊紹介 彙報 編集後記

前 号 目 次

〈空白〉をまたぐ枕草子

——雪山段の雪山と入内記事から——

三田村 雅子 1

『古事記』・『日本書紀』に載録された海幸山幸神話の

近代における受容の周辺

小野小町「思ひつつ」歌をめぐる学習の可能性

——「社会・世界」について知るための古典学習——

及川 智 早 13

『蜻蛉日記』上巻前半部考

——諧謔的な表現を中心に——

有馬 義 貴 25

『うつほ物語』「蔵開中」巻の講書の場

——「物語」の共有と交錯——

福家 俊 幸 39

『堤中納言物語』「はなだの女御」論

——物語から遠くはなれて——

陣野 英 則 67

「杯中の蛇影」故事考

——疑病、そして怪談へ——

伊 丹 81

永井荷風『江戸藝術論』における

エドモン・ド・ゴンクールへのまなざし

児 島 春 奈 95

案内と彷徨

——谷崎潤一郎の中国体験におけるツーリズム——

清 水 智 史 109

「涙い海」の発見

——藤沢周平最初作作品論——

高 橋 敏 夫 121

人称詞「わたくし」の成立

~~~~~

山 中 梓 157

〈書評〉

大津雄一著『挑発する軍記』

——教育装置としての〈軍記#物語〉——

兵 藤 裕 己 135

山田俊治著『福地桜痴』

~~~~~

木 戸 雄 一 139

新刊紹介 彙報 編集後記